



代表あいさつ

地域活動活性化のアンケートにご協力を！！

あびこ市民活動ネットワーク 代表 関口 隆彦



厳しい暑さがようやく落ち着いてきました。今年の暑さは身の危険を感じるほどで、夏休みの公園には子どもの姿も少なく、まちを歩いている人も日中は少なく感じました。

しかし、手賀沼の花火大会や夏の祭りが開催され、我孫子のまちで楽しめる行事が戻ってきたことに嬉しさを感じています。地域の行事で住民同士のつながりを感じられるまちは魅力的だと思います。

そんな魅力が地元愛につながり、まちに関心を持つことで市民活動に興味を持つきっかけになると私は考えます。市民活動の活性化には我孫子の魅力が増していくことが必要なのかもしれませんが。

さて、今年度の「会員の現状を把握する事業」で、会員の皆様に活動に関するアンケートを企画しております。10 月中にメールにてお送りする予定ですので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

【子ども応援団事業 2023】

シンポジウム「New 子どもの居場所を考えよう！」 ～だれもが行きたくなる子どもの居場所をつくる～

あびこ市民活動ネットワークでは、5 年間にわたって生きづらさを抱える子どもたちを応援してきました。その中で、家庭でもなく、学校でもない第 3 の居場所があったらいいねという話になりました。子どもの居場所？我孫子市にも、すでに何か所かそんな活動をしている団体があると聞き、皆さんにお話を聞く会を開催することになりました。ふるってご参加ください。

12月9日(土) 13:30-16:00

我孫子市南近隣センター多目的ホール(けやきプラザ9階)

第1部：子どもの居場所主催団体報告 手賀沼まんだら、ビスケット、ウエルシア薬局株式会社

第2部：パネルディスカッション 「だれもが行きたくなる子どもの居場所をつくる」

主催：あびこ市民活動ネットワーク 子ども応援団実行委員会

後援・協力：我孫子市 我孫子市教育委員会 我孫子市社会福祉協議会

< もくじ >

- 1P あびこ市民活動ネットワーク代表挨拶／子ども応援団事業
- 2P 活動報告 我孫子市との連携事業
- 3P 活動報告 会員の現状を把握する事業
会員の活動あれこれ 虹色未来大学
- 4P 会員の活動あれこれ ACOBA

- 5P 地域の活動あれこれ NPO 法人アビーズ
- 6P 地域の活動あれこれ 湖北台 5 丁目自治会ねこ問題専門部の地域猫活動
地域のみんなで作る子どもとお年寄りの広場 蔵食堂
- 7P 役員会報告／事務局から
- 8P みんなの掲示板／SKS から

－我孫子市との意見交換会を行いました－

10月3日にあびこ市民活動ステーションで、市民協働推進課とあびこ市民活動ネットワーク（以下 ACNW）の役員で意見交換を行いました。我孫子市の市民活動が活性化するために我孫子市と ACNW がどのような連携を図るべきかを具体化するために、以下の議題について話し合いました。

① 令和4年度に実施した地域コーディネーター養成講座の成果と課題について

令和4年に行われた地域コーディネーター養成講座は、定員30名のところ33名の参加がありました。今年度の市民のチカラまつりの企画委員に養成講座を受講された8名の方が参画され、養成講座をきっかけに市民活動に関わりはじめて人が出てきたことは成果の一つです。

あびこ市民活動ネットワークでは、まちづくりを活性化するために養成講座修了者の方々と意見交換の場を持つことを検討しています。

② 地域活動に参加する人の不足についての課題と考えについて

担い手不足については以前から言われ続けていますが、実は市民活動に興味をもっているものの、始め方や最初の関わり方がわからず、活動に参加できていない人が多いのではないかという意見を伝えました。また、市民活動は幅が広いので、何から手を付けてよいのか分かりづらいことも要因の一つなので「この活動をする人が足りないので、まず一緒にやってくれませんか？」などの具体的な誘い方の必要との声もあがりました。我孫子市には市民活動に関心がある方は多いようで、そういった方々を対象としたイベントを市民協働推進課と ACNW が共同開催する案も出されました。

③ 令和6年度からの市民活動団体への公募補助金の現状について

令和6年度からの公募補助金については、昨年あびこ市民活動ネットワークが実施した意見交換会では、☆行政としてどういった資金支援の在り方がこれから必要であるのか。☆新たな団体を後押しできるどのような制度が必要なのか、という点などについて意見交換しました。一方で、申請書類の簡素化や、公募補助金を現在受けている団体の相談や支援体制についてのサポートも、今より必要ではないかという意見もありました。市民活動が活性化および自立した地域のための活動団体を増やしていくために、どのようなあり方が一番良いのか検討が重ねられている状況でしたが、市民協働推進課として具体的な進捗は確認できませんでした。

④ 我孫子市公益活動支援指針の現状について

市民活動支援指針の内容に合わせて市は取り組みを進めており、課題として市民協働推進課が取り組んでいる情報の発信が遅れていると担当課では感じていました。



意見交換を通じて、市民活動団体も行政も現状にあわせて取り組みをアップデートする必要があると感じました。会員の皆様が抱えている課題や、地域の課題のサポートや軽減のために、あびこ市民活動ネットワークが取り組むべきこと、できることを検討し、我孫子市との連携を強めていきます。

(担当幹事 関口隆彦)

－会員の皆様の活動に関するアンケート調査を実施します－

会員の皆様の活動状況を把握し、あびこ市民活動ネットワークがこれからやるべきことを明確にするためにアンケート調査を実施します。10月中に会員の皆様にメールでアンケート調査票をお送りいたします。

アンケート調査の結果をもとに、会員の皆様との有意義な交流や市民活動団体が抱える課題、活動をしながら感じていることを市との連携に反映させていきます。

アンケート調査100パーセントの回収を目指しています。ご協力をお願いいたします。

(担当幹事 関口隆彦)

会員の活動あれこれ

スマートホーム化って？～遠隔見守り機能です～

最期まで安心して自宅で暮らすために

虹色未来大学 宇野真理子

2023年4月に、「虹色未来大学 我孫子校」という市民活動団体を立ち上げました。元氣“幸”齢者を増やしていくことを目標に活動しています。

我孫子市は東葛地域の中で最も高齢化が進んでおり、自宅での生活に不安を抱く単身世帯や高齢者のみの世帯も増え続けています。

年を重ねると、医療や介護のお世話になることも増え、『最期まで安心して自宅で暮らしたい』と思ってもなかなか難しいのが現状です。そのような中で注目されているのが遠隔から見守ることができるスマートホームと呼ばれる遠隔見守り機能です。スマートデバイスと呼ばれる機械を導入し、お手持ちのスマートフォンをつなげば、離れていてもベッドでの様子を確認できます。また音声で会話もでき、コストも意外とお安く、設定もシンプル！現在色々な企業と連携を取りながら導入準備を進めています。

今後、「虹色未来大学」ではスマートホームの導入をサポートする活動を強化していきます。興味がある方や検討中の方は、お気軽にご連絡ください。安心な生活を実現するお手伝いをさせていただきます。

虹色未来大学 我孫子校 宇野携帯 080-3737-0114 柳葉携帯 080-4191-0428

◆家電が操作される仕組み



ACOBA の「休眠預金事業」活動

NPO 法人 ACOBA 顧問・休眠預金事業プロジェクトマネージャー 関本 征四郎

NPO 法人 ACOBA は 2003 年コミュニティビジネス協会を設立、2005 年に法人化現在 60 名ほどの会員がいます。「いつまでも誰かの役に立ちたい、自分の住んでいる街で生き生きと暮らしたい、活動を通じて世代やキャリアを超えた交流を進め、街を元気にする仲間を増やしていきたい」との思いで活動を行っています。

2019 年に「民間公益活動を促進するための休眠貯金等に関わる資金の活用に関する法律」（休眠預金活用法）が制定され、過去 10 年間銀行に眠っていたお金を「地域の課題解決のために使う」と言う休眠預金事業がはじまりました。この制度は国が吸い上げた資金を内閣府の管轄のもと、①「指定活用団体＝一般社団法人日本民間公益活動連携機構以下 JANPIA」→②「資金分配団体」→③「実行団体」を通して事業を行うという 3 層の仕組みで成り立っています。

審査会で採択されたのは、柏市 2、松戸市 1、野田市 1、流山市 1、我孫子市 2、東京都 1 合わせて 8 団体です。



我孫子市では、①手賀沼まんだらー活動テーマ「手賀沼版美味しい革命～食べることは生きること～」②NPO 法人アビーズー活動テーマ「コロナ禍での生活困窮世帯などの子育て・生活及び学習の支援事業」の 2 団体が採択。さらに③株式会社 Hafenー活動テーマ「困窮する子ども・若者の学び支援と地域のコミュニティプレイス運営」は市内のミナトスポーツクラブで事業が運営されます（本社は野田市）。

休眠していたお金を「地域の課題解決のために使う」という素晴らしい法律を制定した国を誇りに思うと同時に、これからも地域が元気になるためのサポートを続けたいと考えています。



ACOBA は資金分配団体として 2020 年度（事業資金 3000 万円）と 2022 年度（同 7000 万円）に応募・採択されました。2022 年度は千葉県東葛地区を活動エリアとして・対象とする助成事業テーマを「困窮する子ども・若者の支援体制整備」とし、実行団体を募集したところ、15 団体の応募がありました。

◆JANPIA のホームページ [一般財団法人 日本民間公益活動連携機構 \(JANPIA\)](#)

◆ACOBA のホームページ [千葉県我孫子市の NPO 法人 ACOBA \(あこば\) ホームページ](#)



地域の活動あれこれ

NPO 法人アビーズ 躍進の年！

NPO 法人アビーズ 理事長 宮本 慈子

NPO 法人アビーズは、2012年設立以来①子育て支援②学習支援（あびじゅく）③フードバンクの3本柱で活動を行っています。

これまでは「手の届く範囲」で、会員の会費と寄付を頼りに人件費ゼロの手弁当での活動をしていました。今年、多くの方の後押しがあり、休眠預金活用事業の補助金を頂けることになりました。ある日を境に目が回るほど忙しい日々がやってきました。せっかくだかく補助金ですから、これまでやりたくてもできなかったことを、この補助金を活用して実現したい。特にコロナ禍で生活困窮となったご家庭に対して、少しでも「今、必要な支援」になるよう、精力的に活動をしています。

① 体験学習の実施

子ども料理教室

アンデルセン公園バス遠足

手賀の丘宿泊体験学習

泳げない子の水泳教室

家から出られない子の個別出張料理教室



(ミナトスポーツでの水泳教室)

② 学習支援

あびじゅく（学習支援の場所）の様様替え

オンライン指導

参考書、図書の充実

③ フードバンクの回収先の拡大

毎週2回、わくわく広場の期限切れ近い野菜の回収と配達

これらの事業に日々、取り組んでいます。

こども料理教室では、包丁を使ったり、混ぜたり、作業をしながら食べ方や調理方法などを見たり聞いたり実践したりと、年齢に応じて楽しい時間を過ごしました。

後日「家で作ってみた」とか「野菜が食べられるようになった」という声が届きました。



また、毎週のように野菜の配達をしていると、その家庭の今の困りごとや課題が見えてくる場合があります。ニーズの掘り起こしの効果は大きく、活動をやればやるほど次の活動が生まれてくるという状況です。

念願だった“あびじゅく”（学習支援の場所）の改造もでき、図書や図鑑なども増えてきました。かねてから実施したかったオンライン指導も、その子にあった形での実施を実現しました。

今年いっぱい、この補助金を活用してあちこちに種をまき、来年以降も持続可能な活動になるように、組織の体力とスタッフの体力をつけていきたいと思っています。「手の届く範囲の活動」を「走っていけるくらいの範囲の活動」に拡大していけたらいいと思います。日々走っています。

人と猫が共生する地域猫活動

～住み良いまちづくりに向けて～



「地域猫」を知っていますか？飼い主のいない猫（のら猫）による生活環境被害の発生が全国的に課題となっています。地域猫とは、特定の飼い主がおらず外で暮らす猫のうち、地域住民の理解・合意のもと、不妊去勢手術や、ふん尿・餌やりなどにより適切に飼養・管理されている猫のことです。猫は1年に2～4回出産でき、1回に約4匹～8匹の子猫を産みます。生後約7～8ヵ月で雌は繁殖能力を備え、雄は発情するようになるため、不妊去勢手術を行わないと、猫は増え続け、ふん尿や鳴き声のトラブルも増えてしまいます。なにより不幸な命が増えてしまいます。飼い主のいない猫を減らすために、地域住民・ボランティア・行政が協力し、人も猫も暮らしやすいまちづくりを目指す取り組みを地域猫活動と呼びます。飼い主のいない猫についてのトラブルは長年の地域課題となっているものの、課題を認識されていないことが多いです。そのため、今回は実際に地域猫活動を自治会として取り組んでいる「湖北台5丁目自治会」に話を伺ってきました。

ご協力いただいたのは、湖北台5丁目自治会の「ねこ問題専門部」にかかわる方々です。湖北台5丁目自治会のねこ問題専門部は令和3年に立ち上がりました（令和4年5月に我孫子市の地域猫活動団体に登録）。飼い主のいない猫が出産した子猫を見かけた住民が「このままだとのら猫が増え続けてしまう」と感じ、地域猫と飼い主のいない猫の分布や状況を調査し、自治会に働きかけたことが立ち上げのきっかけです。

ねこ問題専門部が立ち上がる前は、有志の住民が自腹で不妊去勢手術をして、地域の課題に個人の出費で対応している方がおられました。飼い主のいない猫を減らすために、住民の方が自己犠牲で課題軽減に取り組んでいても、後ろ指を指されるようなこともあったようです。飼い主のいない猫の環境被害にあった人は困りますが、自治会で予算を取って新たな取り組みをつくることは簡単ではなく、自治会として地域猫活動を行うまでにはなかなか至りませんでした。ただ、新型コロナウイルスの流行によって、自治会活動が実施できない中で行った住民アンケートに、飼い主のいない猫による環境被害の声があり「自治体の活動ができない時だからこそ、地域でできる新しい取り組みを」という案から発足されました。

飼い主のいない猫の問題の話聞いて、活動理解を得ることの困難さを感じました。また、特定の地域だけが地域猫活動をして、猫は近隣に移動する動物なので、隣接する地域が共に協力して同時に活動する必要性もみえました。相互扶助という地域基盤づくりに、この地域猫活動が一つのきっかけになるよう、住民と行政が同じ目線で取り組む協働が必要です。

（担当幹事 関口隆彦）

～ねこ問題専門部で取り組んでいること～

- ・飼い主がいない猫の不妊去勢手術
- ・ねこ専通信という地域猫活動の活動情報の発信
- ・ふん尿被害を軽減するガーデンバリアの設置
- ・地域猫に餌をあげている場所への猫用トイレ設置
など

～地域猫活動の課題～

- ・自治会の活動は1年ごとに人も取り組みも変わるので、地域猫活動の必要性の理解を得るために、活動によって得た成果を見える化する工夫が必要
- ・行政から不妊去勢手術補助金があるが、それ以外にも捻出する費用がある
- ・行政が地域猫活動の窓口として相談に乗ってくれるものの、地域猫活動で実働するのは住民なので、ノウハウがわからない状況だと頭を抱えることがある。同じような取り組みをしている団体と情報をやりとりできるつながりがほしい
- ・行政から住民に向けた地域猫の啓発等をより強めてほしい



ねこ問題専門部の猫専通信

■7月度役員会 7月13日(木) Zoom会議の併用

・各事業の報告

① 我孫子市との連携事業

市民協働推進課との意見交換会に向けて、連携を強化するために必要な議題を打ち合わせする。打ち合わせ時期は8月中に実施予定。

② 会員の現状および課題を把握する事業

以前実施した会員向けアンケートを参考に、コロナによって活動が停滞した期間が明けた現在の会員の活動状況や今後の活動方針を把握する内容のアンケートを作成していく。10月中にアンケート調査を送付予定。

③ 子ども応援団事業

我孫子市と教育委員会に後援していただき、我孫子市で居場所について活動している団体、企業にパネリストとして参加を打診する。

■8月度役員会 8月10日(木) Zoom会議の併用

・各事業の報告

① 我孫子市との連携事業

9月後半から10月初旬に市民協働課との意見交換会を実施予定。事業チームの打ち合わせを9月後半に行う。

② 会員の現状を把握する事業

前回の役員会で議論した内容をもとに、8月中にアンケートのたたき台を作成する。その内容を9月の役員会で検討できるよう準備を進める。

③ 子ども応援団事業

7月25日に第3回の打ち合わせを行った。陣ボジ有無は12月9日に実施予定。ACNWの予算から2万円を事業費として使用する。

④ その他

ステーションとの意見交換会を実施し、連携を図ることで、双方協力し合う体制を確認しあう場があると良いのではないかと。また、地域コーディネーター養成講座を受講された方とも、つながりを今後持てると良い。

■9月度役員会 9月14日(木) Zoom会議のみ

・各事業の報告

① 我孫子市との連携事業

10月3日に市民協働推進課との意見交換会を実施する。9月の最終週にチームで打ち合わせを実施し、事前に議題を市民協働推進課に伝えられるよう準備する。

② 会員の現状及び課題を把握する事業

作成したアンケートのたたき台をもとに役員会で議論を行った。内容を修正し、10月の役員会で決定できるよう準備を進める。

③ 子ども応援団事業

8月24日に担当で打ち合わせをした。9月中にパネリストの方と顔合わせの場を設け、当日の内容について検討する。

(担当幹事 山本聖)

★ 事務局から ★

◆会報の「みんなの掲示板」に会員団体のイベントPRや会員募集、他の会員への呼びかけなどの掲載を希望される場合は、事務局(メール acnw.jimukyoku@gmail.com)までご連絡ください。

◆アドレスご登録の会員には、この会報電子版や、イベントなどのご案内をメールでもお届けしています。アドレスの新規登録をご希望の会員も上記にご連絡ください。

◆各団体の役員・担当者・連絡先等に変更があった場合は、その都度、あびこ市民活動ステーションにFaxにてご連絡するようお願いいたします。(Fax 04 7165 4370)

◆あびこ市民活動ネットワークホームページ活用についてのごお願い◆

あびこ市民活動ネットワークのホームページに、ご参加ください!

- ・各団体の活動報告
- ・活動予定
- ・新規会員募集
- ・各団体からのお知らせなど

あびこ市民活動ネットワークのホームページを使って

会員の活動を活発に情報発信していきます。

我孫子市の市民活動活性化につなげていきたいので、ご協力をお願いいたします。

◆次号は1月15日発行予定です。



あびこ市民活動ネットワークHP

みんなの掲示板

citia 20周年記念 秋まつり 11月3日(金・祝)・4日(土)



2003年、我孫子駅北口の日立精機跡地に誕生した「citia」が20周年を迎え、2日間の秋まつりを開催します。多目的ホール、ラウンジ、キッチン、カフェなどの多彩な共用施設を活用して、スマホ教室や落語会、寄せ植え講座など多くのプログラムを実施。おもちゃクリニックや高齢者なんでも相談室のブースもあります。中庭広場には両日とも美味しいキッチンカーが集結し、3日はカフェ前で昼市(新鮮野菜販売)も開催します。



～今日からはじめる健康管理～

「健康」を維持していくためには、「心」と「身体」の両面のケアが大切です。身近な人や大切な人の健康のために個々の生活に合わせた健康管理をしましょう。食生活、運動、睡眠、休養などの生活習慣の中で「健康寿命を伸ばす」ための健康管理とは??

日時 10月25日(水)13時30分～15時30分
場所 あびこ市民活動ステーション (けやきプラザ10階)
お話し 森本明生さん (あびこ健康管理士会・地域コーディネーター)
参加費 無料 先着10名
申込み ☎ 渥美 080-3446-1845



ほっこりサロンあびこ **参加者募集**

—あなたの“困った”を助ける—

～今日からはじめる健康管理～

「健康を維持していくためには、「心」と「身体」の両面のケアが大切です。身近な人や大切な人の健康のために個々の生活に合わせた健康管理をしましょう。食生活、運動、睡眠、休養、休養いずれの生活習慣において「健康寿命を伸ばす」ための健康管理とは??

健康寿命を伸ばすためには、何を意識するの? 食生活、運動、睡眠、休養、休養の生活習慣を...

日時 10月25日(水)13時30分～15時30分
場所 あびこ市民活動ステーション (けやきプラザ10階)
お話し 森本明生さん (あびこ健康管理士会・地域コーディネーター)
参加費 無料 先着10名
地域での支え合いのきっかけを作りたい方も、ご参加ください。

高齢者の日常生活
困っているが、どこに相談したらいいか、わからないことはありませんか?
このサロンでは、困り事の解決のための情報を提供したり、参加者同士で交流することで地域の知り合いをつくります。

お申込み お問合せ先
渥美 ☎080-3446-1845

あびこ市民活動ステーションからのお知らせ

我孫子・印西協働フォーラム 2023

「わっしょい市民活動!!一緒に描こう!私のまちの未来予想図」を開催します
我孫子市と印西市は、人口10万人台の中核都市です。この規模の自治体は、都市的な機能を備えつつも、自然に恵まれ、人間関係も密な暮らしやすい環境にあると言われています。
現在、人口・経済が急速に変化する印西市と、安定的な我孫子市を比較しながら、これからのまちづくりについて市民の視点でアイデアを出し合います。
さらに、暮らしやすさには市民活動の活発さが関わっていると考え、両市の新しい市民活動を紹介し合い、団体同士の交流を深めます。
市民活動を通じて主体的にまちづくりに関わる市民が増えること、それが本事業の目指すところです。

日時: 11月25日(土)9時30分～15時
場所: アビスタ、手賀沼公園
内容:
①9時30分～11時30分 フォーラム: 我孫子市と印西市の地域分析、両市で活躍する新進気鋭の市民活動団体の紹介 定員: 50人 会場: ホール
②午後 ワークショップ: アンガーマネジメント講座、コーチング講座、超高齢社会体験ゲーム「コミュニティコーピング」など
参加費: 無料
問合せ・申込先: あびこ市民活動ステーション
電話 FAX 04-7165-4370 メール abikosks@themis.ocn.ne.jp